



MONEX GROUP

マネックスグループ株式会社

2025 年 3 月期決算 アナリスト向け説明会

2025 年 5 月 9 日

イベント概要

[企業名]	マネックスグループ株式会社		
[企業 ID]	8698		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 3 月期決算 アナリスト向け説明会		
[決算期]	2025 年度 通期		
[日程]	2025 年 5 月 9 日		
[ページ数]	42		
[時間]	18:00 – 18:50 (合計：50 分、登壇：37 分、質疑応答：13 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	1 名 取締役兼代表執行役社長 CEO 清明 祐子（以下、清明）		
[アナリスト名]*	SMBC 日興	原 貴之	

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

モルガン・スタンレーMUFG 長坂 美亜

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、
SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

清明：皆様、こんばんは。マネックスグループの清明でございます。早速ですが、2025年3月期の年度決算説明につきまして、私からご説明させていただきたいと思っております。いつものとおり、決算説明資料に基づいてご説明申し上げます。

2025年3月期のコミットメントの振り返り

MONEX GROUP

各グループ会社の成長戦略の推進、成長領域への投資、資本コストおよび株価を意識した経営を着実に実施。今後の更なる成長のための礎を築いた一年となった。

2025年3月期のコミットメント	主な成果
1. 成長戦略の追求と利益成長	 マネックス証券 NTTドコモとの協業推進、事業基盤強化  TradeStation API戦略推進、ターゲット顧客数増加  Coincheck Group Nasdaq上場、コインチェックのステーキング開始
2. 成長領域への投資	 3iQ クリプト×資産運用業への参入  NEXT FINANCE TECH Coincheck GroupによるNext Finance Tech買収  WESTFIELD CAPITAL MANAGEMENT 資産運用ビジネス強化に向けた成長投資 4/23 開示
3. 資本コストおよび株価をより一層意識した経営	 MONEX GROUP 規律ある資本政策の制定 ROEターゲット15%の設定 マネックスBOOM証券売却（特別配当実施予定）

4

最初にハイライトでございますけれども、2025年3月期にコミットしたことの振り返りをさせていただきます。昨年度、2025年3月期、私ども三つのことをやりますということでコミットいたしました。

まず、一つ目に各グループ会社、主要3社の成長戦略の推進、それから新たな成長領域への成長投資、そして資本コストおよび株価を意識した経営ということで、強固な資本政策をつくるということをやってまいりました。

それぞれ振り返りますと、まず既存事業の成長戦略でございますが、マネックス証券、NTTドコモとの協業が本格的に昨年度スタートしておりますけれども、実際に成果も現れてきており、事業基盤の強化も図れてきております。トレードステーション、ハイバリューカスタマーにフォーカスしようという明確な戦略のもと、API戦略を推進したり、ターゲット顧客数を増加させることをやってまいりました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



その結果、2025 年 3 月期は過去最高の営業収益、利益面につきましてもグループ入りした後、グループ入り後最高の利益を計上したという結果を残しております。

またコインチェックは、その完全親会社となるコインチェックグループが 2024 年 12 月にナスダックに上場するということを果たしました。コインチェックにおきましては、新たなサービスとしてステーキングサービスを開始したりしております。

そして、成長領域への投資ということで 2024 年 4 月にクリプト運用会社の 3iQ を買収し、2025 年 3 月にコインチェックグループで、Next Finance Tech というステーキングプロバイダを買収いたしました。

また、3 月期ではないのですが 4 月に入りまして、こちらも成長投資としてフォーカスして掲げております資産運用ビジネス、Westfield という会社ですが、ボストン拠点の資産運用会社でございます。こちらに投資をいたしまして、持分法適用会社に、この 4 月よりしております。

このように既存事業の成長戦略の推進、そして新たな投資ということで、いくつも実績を残した期でございました。さらには、資本政策としまして ROE のターゲット 15%を設定したり、あるいは資本効率に鑑みまして売却しましたマネックス BOOM 証券。こちら売却した資金を原資として特別配当をするということで、しっかりと還元のほうもさせていただく。この特別配当を期末配当に乗せますのでこれからになりますが、そのような形でコミットメントをしたことにつきまして着実に実績を残せたと振り返っております。

マネックス証券と NTT ドコモさんとの資本業務提携もそうですし、マネックス BOOM 証券の売却もそうです。コインチェックにおきましては、その完全親会社となるコインチェックグループの上場も果たしました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

そのような形で事業ポートフォリオの最適化を進めてまいりましたので、今年の2025年4月よりセグメントを刷新いたしました。

事業セグメントの刷新

MONEX GROUP

事業ポートフォリオの最適化を終え、2025年4月より事業セグメントを刷新。



5

これまでは日本セグメント、米国セグメント、クリプトセグメントというように地域と事業とがミックスする形で分かりづらかったのですが、4月以降、証券事業セグメント、マネックス証券とトレードステーション、クリプトアセット事業セグメント、コインチェックグループ、コインチェック、そして新たにアセットマネジメントウェルスマネジメント事業セグメントをつくりました。ここを現在強化中でございます。3iQ もそうですし、Westfield 社も、しっかり投資してまいりますが、そのようなことから事業セグメントとして切り出しました。

投資事業セグメント、これ、維持しております。その他ということで、それぞれの事業セグメント中の事業会社成長戦略、例えばマネックス証券、アセマモデルの推進、引き続き頑張っております。NTT ドコモやイオン銀行さんとのアライアンス、これまでも成果が出てきておりますけれども、これからも推進してまいります。トレードステーションもこれまでと同様の戦略、コインチェックグループにつきましては M&A をしっかりやっていくということ。コインチェックにつきましては既存の顧客基盤、BtoC の基盤をベースに BtoB ビジネスへの拡大も図ってまいりたいと思います。アセットマネジメント、ウェルスマネジメントにつきましては、ここ、今、現在の一歩の成長領域だと思ひまして投資を積極的に推進しておりますけれども、この事業ポートフォリオ内で

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

の資産の最適化、ビジネスポートフォリオの最適化も図っていきまし、シナジーの創出というものもやってまいりたいと思います。

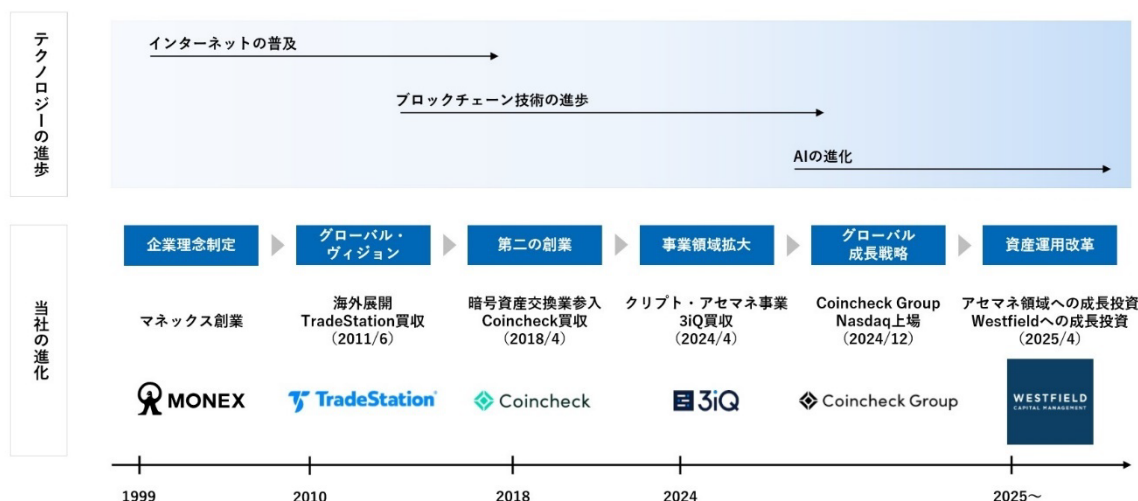
ただ、この4月からセグメントを変更しておりますので、きょうこの後ご報告申し上げます数字につきましては、終わった期の数字でございますから3月までのセグメント、日本セグメント、米国セグメント、そのような形で報告させていただきます。

この4月からは、このような形で事業セグメントを変えて、今後の数字の報告もこのセグメントに沿う形でご報告しますがご了承ください。きょうのご説明は前のセグメントになります。

成長領域への投資

MONEX GROUP

当社グループは、テクノロジーの進歩に沿って事業を育て、積極的な成長投資によって事業を拡大してきた。今後も成長投資を促進し、イノベティブな価値の創造に取り組む。



6

あらためまして私どもの軌跡でございますけれども、テクノロジーとともにビジネスをつくり、それをグローバル化し、さらに投資をすることで広げていくことをしてまいりました。足元、昨年度は先ほど来から申し上げておりますコインチェックグループのナスダック上場、コインチェックを買収したのは2018年でございます。そこからクリプト資産運用会社の3iQを買収し、そしてコインチェックグループを上場させ、また、今、足元は資産運用ビジネス強化ということでWestfield社に投資をいたしました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



当社グループは、米国のアセットマネジメント会社であるWestfield Capital Management Company, L.P. の持分20%を取得し、同社を持分法適用会社に。

Westfield Capital Management Company, L.P.の概要

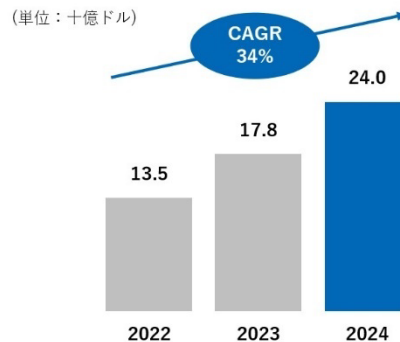


- 所在地：米国 ボストン
- 投資戦略：Growth Investing
- AUM*：240億ドル（2024年12月末時点）
- 年間営業収益：1億ドル超（2024年）
- 平均預り期間：17年

*Asset Under Management（運用資産残高の略）

Westfield社の過去3年間のAUMの推移

顧客にサブアドバイザーや年金基金などがあること、且つ戦略的に営業を行うことでAUMを拡大してきた。



7

その Westfield Capital Management という会社がどんな会社なのかというのが、7 ページにあります。ボストンを拠点とするアメリカ株の中小型株を強みとしております。成長投資、グロースの資産運用会社でございまして、AUM は 2024 年 12 月末で 240 億ドル、そして、この会社、設立が 1989 年と私どもより 10 年先輩になりますが、平均の預かり期間は機関投資家さん、年金、いろいろありますけれども平均 17 年で長くお預かりをさせていただいており、アセットオーナーさんとの関係も非常に強固でございます。

その結果、右側にございますとおり、Westfield 社の過去 3 年の AUM の推移、CAGR でいいますと 34%で、グロース市場はしんどいと言われていたときでも着実に AUM を伸ばしているという会社です。

Westfield、日本にはほぼ出てきておりませんのでご存じない方がほとんどかもしれませんが、Westfield というアメリカ株のロングの商品を、ぜひ日本の個人投資家のかたがたにもご提案したいと思っております。

サポート

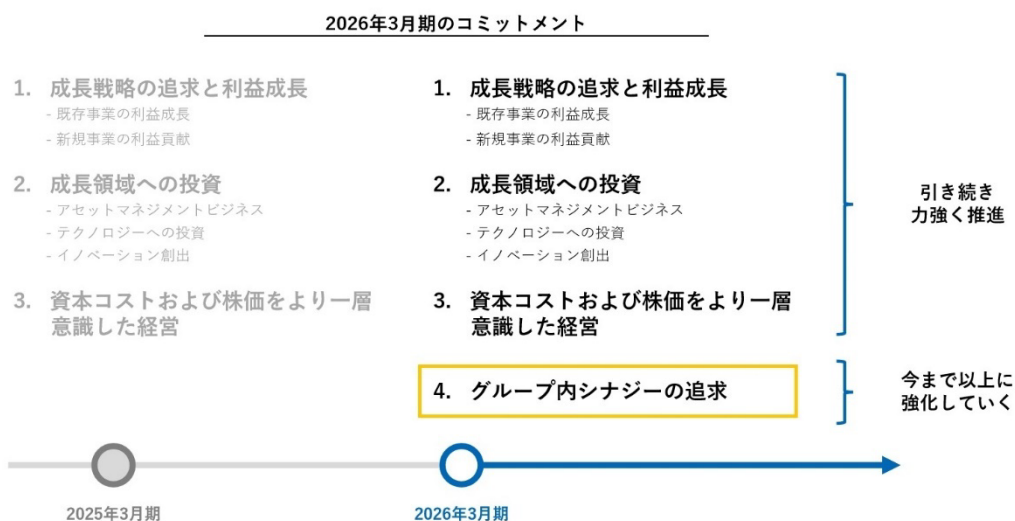
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ここ、まさにシナジーのところでございますけれども、例えばマネックス・アセットマネジメントで投資信託のような商品にしてマネックス証券で販売をするということも考えていきたいと思っております。

2026年3月期のコミットメント

MONEX GROUP

2025年3月期のコミットメントに加えて、2026年3月期は「グループ内シナジーの追求」も推進していくことで、企業価値の更なる向上を目指す。



8

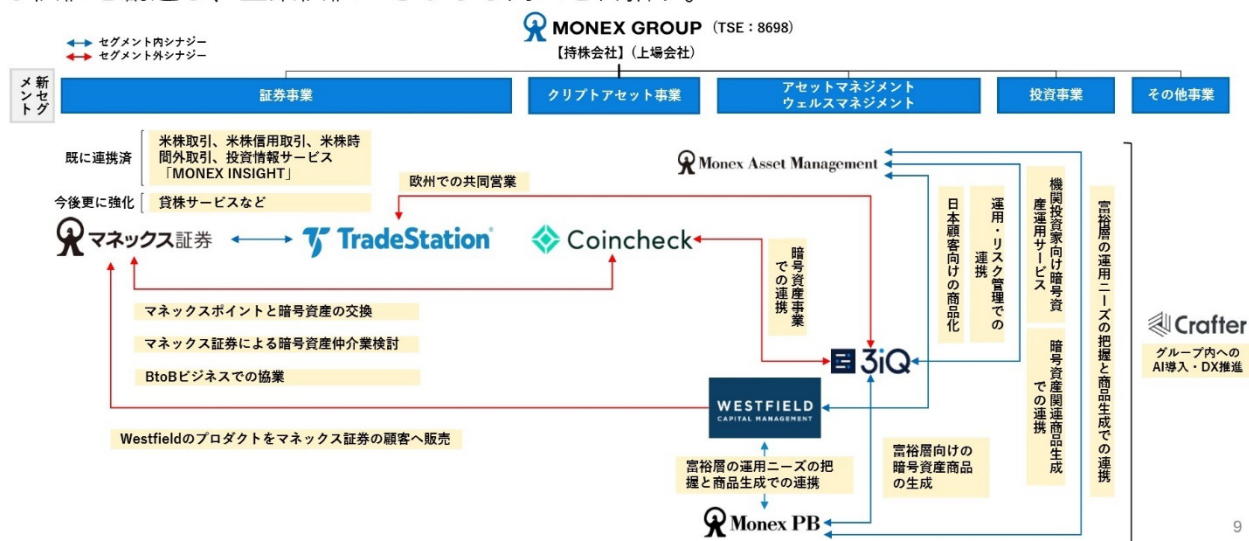
そういった中で、2026年3月期のコミットメントでございますけれども、これまでどおり成長戦略をちゃんと着実に実現していくということ、成長投資もやってまいります。そして、資本コストおよび株価をより一層意識した経営をしてまいりますし、さらにここに加えてビジネスポートフォリオもかなり最適化されてきている中でございますので、ここから先、グループ内のシナジーを追求して、さらに企業価値を上げていくということを今まで以上に今期、やってまいりたいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



各社のオーガニックでの成長に加えて、セグメントを超えてシナジーを創出することで新たな価値を創造し、企業価値のさらなる向上を目指す。



9

そのシナジーにつきましてちょっとビジーで申し訳ないのですが、いろいろございまして、例を記載させていただきます。

マネックス証券とトレードステーションはこれまでどおり米国株サービス、そして投資情報を中心に協業をしていますが、今後、アメリカ株の貸株サービスですとか、今、アメリカにおいては24時間取引等、すごく話題になっております。マネックス証券が唯一時間外取引を提供しておりますので、このあたりはトレードステーションと協力をしてさらに米国株サービスを強化してまいります。

それから、マネックス証券とコインチェック、既にマネックスポイントをコインチェックの暗号資産に交換できるサービス、実施しておりますけれども、今後さらに、例えばマネックス証券において暗号資産仲介業の検討もできますし、あるいはBtoBビジネスでの協業も検討できるのではないかと考えております。

そして、先ほど申し上げましたWestfield、アセマネ事業は結構ありますが、マネックス・アセットマネジメント、Westfield、3iQ、こういった資産運用会社を私ども持っていますので、販売会社との連携、あるいはMonex PBというプライベートバンクのサービスもございまして。そういった富裕層の資産運用ニーズを把握して商品化すること、このアセマネウェルス事業の中でのシナジーも検討できるのではないかと考えております。

サポート

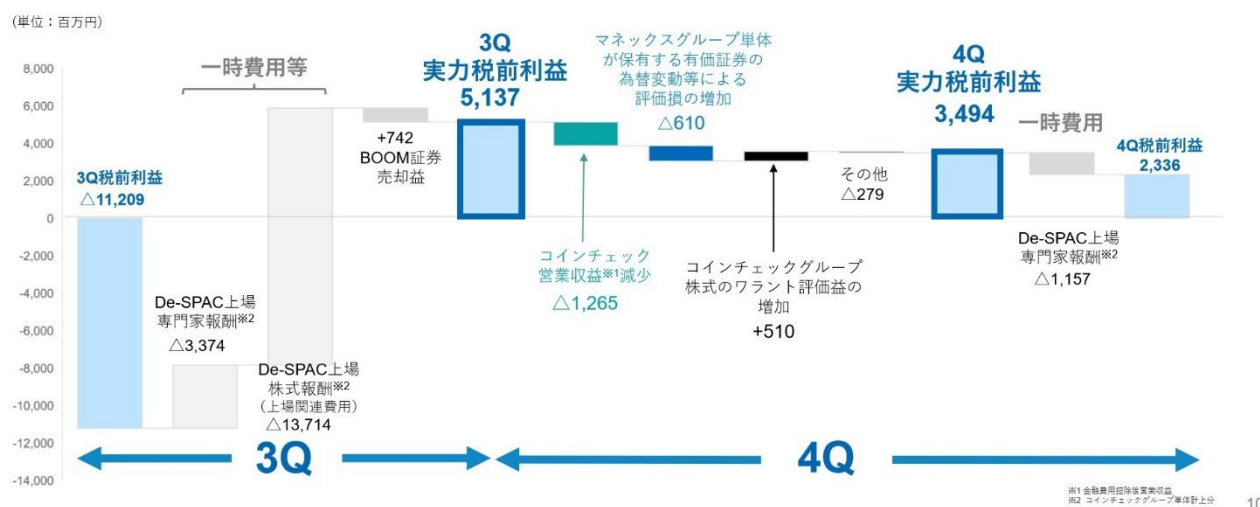
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

そして、その他事業の中に Crafter という AI エンジニアの会社がございますので、現在グループ全体の AI の導入や DX の推進を Crafter の力を借りてやっております。

連結税引前四半期利益（前四半期比）

MONEX GROUP

2025年3月期4QにもコインチェックグループのDe-SPACにかかる一過性の専門家報酬を追加で計上。当四半期には、為替変動等による有価証券評価損益も計上。



さて、ここで数字につきましてまずは前四半期の数字を 3Q との比較で、こちら税引前利益になりますがご説明申し上げたいと思います。コインチェックグループのナスダック上場に係る一過性の費用がございまして、実力値は何かというのが分かりづらくなっておりますので、このような形で実力値での税引前利益が分かるような形にチャートを作らせていただいております。

まず、左側が 3Q、10 月から 12 月の税引前利益です。マイナスの 112 億円でございました。その大きな要因として、一過性の費用として De-SPAC 上場に係る専門家報酬 34 億円、そして De-SPAC 上場に係る株式報酬 137 億円、これらがございました。

これらを除き一過性の益として BOOM 証券売却益もございましたので、そういった一過性の損失利益、これらを除きますと、終わった期の 3Q の実力値の税引前利益は 51 億円でございました。

そこをスタートに、実力ベースどうだったのかということをご説明申し上げます。4Q は、暗号資産市場が 3Q と比べまして、少し低迷していた、低調だったことからコインチェックの利益が落ちています。それからマネックスグループ単体、親会社、ホールディングカンパニーにおきまして持っている有価証券の評価損、為替変動等による評価損があったり、一方でコインチェックグループのワラント部分の評価益があったりし、4Q の実力ベースでは 35 億円というのが税引前利益となっています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



その外側に、実は一過性費用としまして、De-SPAC 上場に係る専門家報酬があります。3Q で費用計上し切れずに 4Q に追加で発生するものがございまして、それが 12 億円。こちら、一過性のものになります De-SPAC 上場のための費用でございまして、会計上の数字は 23 億 3,600 万円が税前利益でございました。

連結税引前利益（前年比）

MONEX GROUP

2024年1月開始のNTTドコモとの資本業務提携によりマネックス証券による利益貢献は減少するも、トレードステーションは当社グループ入り後最高利益を記録。



11

年間も非常に分かりづらくなっておりますので、実力ベースが何だったのかというのをこの 11 ページでご説明申し上げます。

昨年度、2024 年 3 月期の、こちら税前利益になりますが、税前利益は 471 億 7,000 万円でございました。こちらの中には 2024 年 1 月からスタートしました NTT ドコモとの資本業務提携の影響がございまして、マネックスグループが保有していたマネックス証券の株式約半分を NTT ドコモさんに 2024 年 1 月に売却しました。それに係る売却益、ならびに売却した後、私どもも引き続き 51%の株式を保有しておりますので、その 51%分に係る公正価値評価益、それらが 345 億円の合計でございました。こちらが一過性の益になります。

この一過性の益を除いた実力ベースでの、2024 年 3 月期の年間の税前利益は 126 億円でございます。ここをスタートに 2025 年 3 月期の実力値の税前利益をご説明しますと、トレードステーション、冒頭にも申し上げましたが過去最高収益、それから利益も非常に良かったということで、トレードステーションが増益となりました。そして年間で見ますとクリプトアセット事業セグメント、10 月、12 月期、非常に暗号資産市場、盛り上がったというのもございましたし、この 1 年間を通

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



しまして 1Q に IEO 収益の計上もございましたので、コインチェック、クリプトアセット事業セグメントも利益が増加しております。

一方マネックス証券につきましては、今年度 2025 年 3 月期は 4 月から年間を通して持分法会社になりましたので、100%分ではなくて 51%の利益取り込みになっております。

2024 年 3 月期は 4 月から 12 月までは 100%マネックスグループが所有しておりましたので、その 100%が 51%になっている部分の非連結化に伴う、ここの部分で持ち分が減っているというところで減少しております。そういったことがあり、2025 年 3 月期の実力値の税前利益は 136 億 2,800 万円でした。実力値ベースで比較をしますと、イヤーオンイヤーで 8%の増益で着地しております。

今期は一過性の費用と、それから益が発生しております BOOM 証券の売却益 7 億 6,500 万円、そしてコインチェックグループの De-SPAC 上場に係る一時費用、こちら合計しますとおおよそ 182 億円になります。そのため着地といたしましては 2025 年 3 月期の税前利益、マイナスの 38 億 5,200 万円になっております。後ほど数字、少し細かくご説明申し上げます。

資本政策

MONEX GROUP

資本コストおよび株価を意識した経営のもと、2024年10月に資本政策を強化。今後も規律ある運営を行っていく。

資本政策（2024年10月28日発表）

1. ROE目標は15%
2. 成長投資を促進し、持続的な利益成長を追求
3. 株主還元に関する基本方針は維持（P.36参照）

当期期末配当の予想額：1株あたり25.2円（普通配当15.2円、特別配当10円※）

※マネックスBoom証券などの売却により得た資金を原資とし、2025年3月31日を基準日とする特別配当。
1株あたり特別配当10.0円、総額約25億円の特別配当を実施予定。

12

資本政策、現状、このような形になっております。ROE のターゲットを 15%と設定しております。分子といたしまして、私どもとしては分子を増やしていきたい、利益を増やしていきたい。だから成長投資をしていくことをやっておりますし、既存事業の持続的な利益成長を追求していこうとしております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2024年1月4日効力発生の株主還元方針に即し、自己株式取得を実施中。

資本政策

当社は、成長領域への投資や事業基盤の強化を適正かつ積極的に推進しつつ、ROE15%を目指します。加えて、株主の皆様への利益還元をバランスよく実施することで、企業価値の持続的拡大とTSR(※)の向上を目指していきます。

※ $TSR (Total\ Shareholder\ Return (株主総利回り)) = (キャピタルゲイン (株価 + 配当) \div 投資額)$

株主還元に関する基本方針

1. 配当は、1株当たり配当金の下限を年30円とします。
2. 加えて、1株当たり親会社の所有者に帰属する当期利益の50%が上記1.を超えた場合には、1株当たり親会社の所有者に帰属する当期利益×50%を下限とした配当を行います。
3. また、環境を見て、機動的に自己株式取得を行います。

※ 2023年10月4日付のプレスリリース
「株主還元に関する基本方針の変更についてのお知らせ」
https://www.monexgroup.jp/jp/news_release/irnews/auto_20231004562795/pdfFile.pdf

自己株式取得の概要

2024年7月26日に下記自己株取得の決定を発表。

- ・ 株式取得価額：50億円（上限）
- ・ 取得期間：2024年7月29日～2025年6月30日
- ・ 実績：累計 約49.5億円（2025年4月30日時点）

※2024年7月26日付のプレスリリース
「自己株式の取得に係る事項の決定に関するお知らせ」

配当の概要

1株あたり配当金			
	中間期	期末	年間
		25.20円	40.30円
		(普通配当 15.20円)	(普通配当 30.30円)
		(特別配当 10.00円)	(特別配当 10.00円)
2025年3月期	15.10円		
2026年3月期 配当予想	15.20円	15.20円	30.40円

36

一方で、株主還元と分母もしっかりと見ていくということで、株主還元につきましては基本方針36ページにございますが、これまでどおり配当を1株当たり30円、もしくは配当性向で50%のどちらか高いほうを配当としてお出しします。自社株買いにつきましては、フレキシブルに実施しますとうたっております。こちらを維持いたします。

今期の期末配当の予想額につきましては、1株当たり25.2円と本日発表させていただいております。内訳といたしましては普通配当15.2円、こちら、中間配当15.1円でございますので0.1円の増配になります。それとあわせて特別配当10円、こちらの特別配当はBOOM証券を売却したことで得た資金を原資といたしまして株主還元させていただき、合計25.2円の期末配当予想として提示させていただいております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

米国証券事業の営業収益が米ドルベースで過去最高を記録。一方で、コインチェックグループのDe-SPAC上場のための一過性費用を当四半期で追加計上し、連結四半期利益[※]は**8億円**。一過性費用を除いた実力値税引前利益は**35億円**。

日本

市場環境が厳しい中、マネックス証券ではアセマネモデルを推進し収益確保に努め、持分法投資利益2億円。税効果会計の影響もあり四半期利益[※]は**△11億円**。

米国

顧客取引の増加により手数料収益が増加。金融収支も安定的に推移しており、営業収益は米ドルベースで過去最高を記録。費用も適正水準を維持した結果、四半期利益[※]は**18億円**。

クリプトアセット

販売所の取引高の減少により前四半期比減収。当四半期でDe-SPAC上場のための一過性費用を追加計上した一方、ワラントの評価益を計上した結果、四半期利益[※]は**4億円**。一過性費用を除いた実力値税引前利益は**19億円**。

投資

複数の投資先で株式評価・売却損益を計上し、四半期損益[※]は**△4億円**。

※ 四半期利益＝親会社の所有者に帰属する当期利益 14

業績のお話でございます。まず、3カ月のこちらサマリーでございますが、1月から3月の連結四半期利益は8億円でございます。米国事業、トレードステーションの米ドルベース過去最高の収益を計上しております。一方でコインチェックグループのDe-SPAC上場に係る一過性費用を追加で計上しているということで8億円、一過性費用を除いた実力値の税引前利益は35億円でございます。

日本は、マネックス証券は持分法利益取り込みになっておりまして、厳しい不安定な環境でございましたので、マネックス証券自体は単体で見ますと3Qと4Qの比較で減益になっております。2億円の持分法利益に、マネックスグループ持ち株会社単体の税効果会計の影響もありまして、四半期利益はマイナスの11億円です。

米国は過去最高の収益、不安定なマーケットにおいてもアメリカトレードステーションのお客様はそういったマーケットでも取引を維持されるお客様で、特に先物やオプションが多かったので、四半期利益は18億円計上しております。クリプトアセット事業セグメントを一過性の費用を除いた実力値の税引前利益は19億円ですが、先ほどから申し上げており、この4Qはマーケットも少し厳しかったことに加えて、De-SPAC上場の一過性費用を計上しておりますため、四半期利益は4億円の着地です。

投資セグメントは、最近ちょっと厳しい状況でございますが複数の投資先で株式評価売却損を計上しまして、マイナスの4億円です。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

前四半期比（3ヶ月）実績（連結）

MONEX GROUP

(百万円)	2025年3月期 3Q (2024年10月-12月)		2025年3月期 4Q (2025年1月-3月)		増減額		増減率(%)	
	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後
金融費用及び売上原価 控除後営業収益	18,166	18,166	17,023	17,023	△1,143	△1,143	△6%	△6%
販売費及び一般管理費	17,761	14,387 ^{※1}	15,604	14,447 ^{※1}	△2,156	+60	△12%	+0%
営業利益相当額	405	3,779	1,419	2,576	+1,014	△1,203	+250%	△32%
その他収益費用（純額）	△11,614	1,358 ^{※2}	917	917	+12,531	△441	-	△32%
持分法による投資損益	475 ^{※3}	475 ^{※3}	210 ^{※3}	210 ^{※3}	△265	△265	△56%	△56%
税引前四半期利益	△11,209	5,137	2,336	3,494	+13,545	△1,643	-	△32%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	△9,886	-	768	-	+10,654	-	-	-

※1 コインチェックグループ単体が負担するDe-SPAC上場に係る一過性の専門家報酬（2025/3 3Q：3,374百万円、2025/3 4Q：1,157百万円）を調整

※2 コインチェックグループのDe-SPAC上場に係る一過性の株式報酬費用13,714百万円、BOOM証券売却益742百万円を調整

※3 マネックス証券の持分法投資利益を含む（前四半期：482百万円、当四半期：246百万円）

15

全体がこちらでございます。今期につきましては、この3クォーターもそうですし年間も、財務会計の実績値と一過性の要因を除いた調整後のPLもセットで載せておりますので、ご確認いただければと思います。

前四半期比（3ヶ月）実績（セグメント別）

MONEX GROUP

(百万円)	日本		米国		クリプトアセット 事業		投資事業	
	2025/3 3Q	2025/3 4Q	2025/3 3Q	2025/3 4Q	2025/3 3Q	2025/3 4Q	2025/3 3Q	2025/3 4Q
金融費用及び売上原価 控除後営業収益	2,490	2,241	11,086	11,552	4,790	3,525	△61	△295
販売費及び一般管理費	2,499	2,529	9,030	9,368	6,336 ^{※1}	3,685 ^{※1}	35	25
営業利益相当額	△10	△288	2,055	2,184	△1,546	△159	△96	△320
その他収益費用（純額）	981	△17	△52	19	△13,275 ^{※2}	920	△8	△31
持分法による投資損益	482	236	-	-	-	-	△7	△32
税引前四半期利益	971	△305	2,003	2,203	△14,821	761	△104	△351
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	751	△1,057	1,537	1,819	△12,949	408	△20	△432
備考	金融費用及び売上原価控除後営業収益はP17、販管費はP18に増減分析を記載		金融費用及び売上原価控除後営業収益はP19、販管費はP20に増減分析を記載		金融費用及び売上原価控除後営業収益はP21、販管費はP22に増減分析を記載			

※1 コインチェックグループ単体が負担するDe-SPAC上場に係る一過性の専門家報酬（2025/3 3Q：3,374百万円、2025/3 4Q：1,157百万円）

※2 コインチェックグループのDe-SPAC上場に係る一過性の株式報酬費用13,714百万円を計上

16

セグメント別で見ますとこちらになっております。米国が非常に順調、クリプトはマーケットの影響もあり減収に加えて、一過性のコストがかかった形になっております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com



前四半期比（3ヶ月）収益増減分析

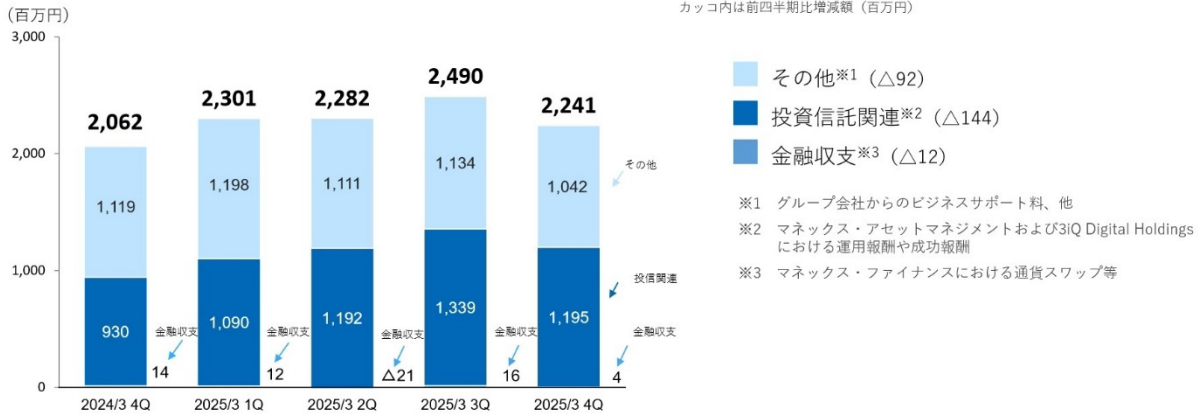
MONEX GROUP

日本：ボラティリティの高い不安定なマーケットの影響を受け減収となったが、マネックス・アクティビスト・ファンドの運用成績は引き続き好調。

金融費用及び売上原価控除後営業収益（5四半期推移）

金融費用及び売上原価控除後営業収益 $\Delta 10.0\%$ ($\Delta 249$)

カッコ内は前四半期比増減額（百万円）



17

前四半期比（3ヶ月）費用増減分析

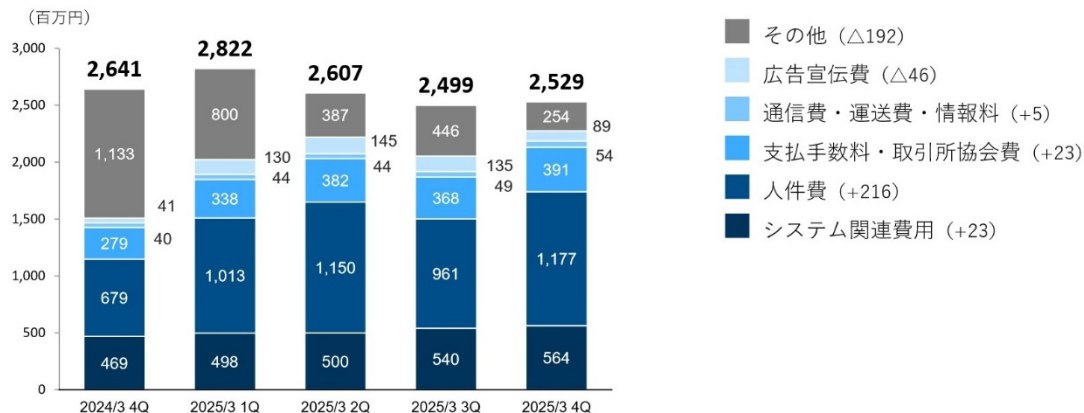
MONEX GROUP

日本：費用全体を適切にコントロールし、前四半期と同水準で推移。

販売費及び一般管理費（5四半期推移）

販管費合計 $+1.2\%$ ($+30$)

カッコ内は前四半期比増減額（百万円）



18

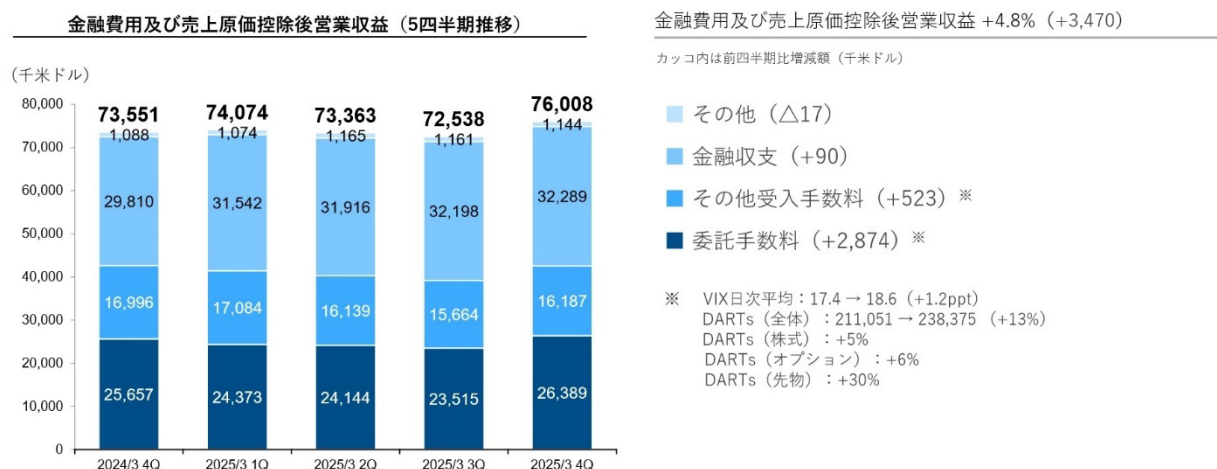
3カ月の日本とアメリカとクリプトの収益費用を見ていきますと、ほぼ日本セグメントは、マネックス・アセットマネジメント、3iQ、そして持株会社のマネックスグループでございますので、あまり見てもよく分からないかもしれませんが、マネックス・アクティビスト・ファンドの運用成績は引き続き好調で、マーケットの影響を受けまして、収益は若干前四半期比でマイナスです。費用もほぼ変わりません。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



米国：不安定な相場においても顧客取引が増加したため手数料収益は増加。金融収支も引き続き堅調で、米ドルベースで四半期最高営業収益を記録。



19

アメリカは、米ドルベースで四半期最高収益を記録しております。ご覧いただきますと1月から3月、非常にボラティリティが高く、関税の問題や、トランプ大統領の発言で日々マーケットがかなり振れるという状況でございましたが、そういったマーケット環境におきましてトレードステーションのお客様、株式もオプションも、それからとりわけ先物取引、こちらは頻度高く取引をされました。

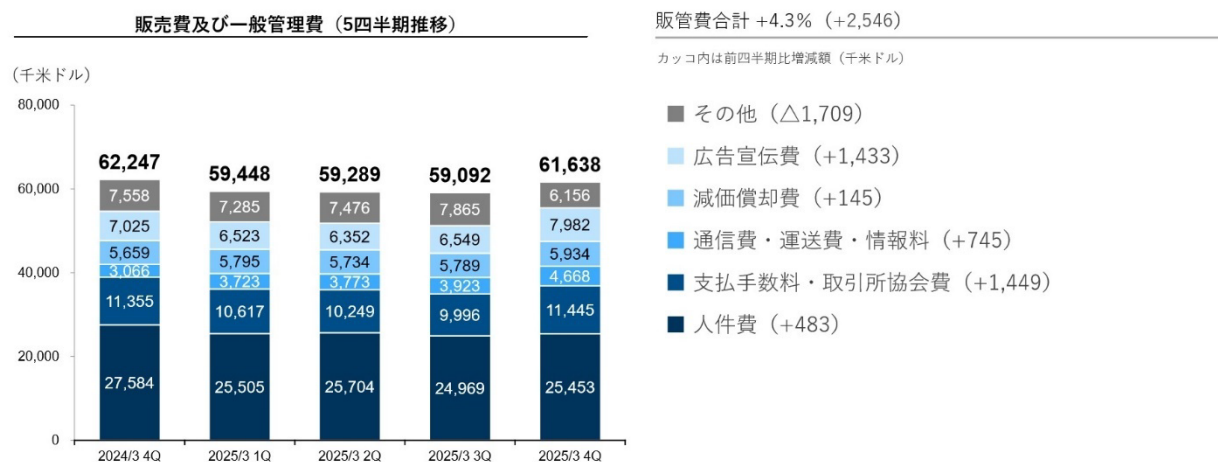
ご覧のとおり、その他の受け入れ手数料、委託手数料、こちら、お客様の取引から発生する手数料でございますが大幅に増えており、それから金融収支も若干利下げがあったのですが、信用取引や貸株取引が活況だったということもございまして金融収支もプラスの着地になっております。結果としてQoQで4.8%増収になっております。こちら、米ドルベースで7,600万ドルの収益でございます。

前四半期比（3ヶ月） 費用増減分析（米ドル建て）

MONEX GROUP

米国：先物等の顧客取引増加により支払手数料が増加。

また、当四半期は顧客獲得に最適な時期であり計画的に広告宣伝費を投下。



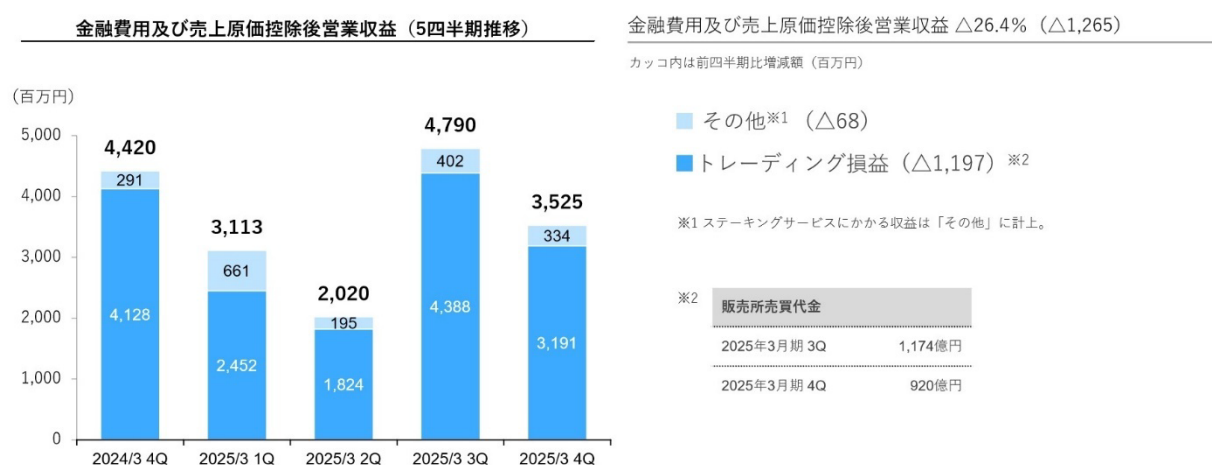
20

一方、費用はしっかりとコントロールできております。広告宣伝費で1.4ミリオンぐらい増えておりますが、この期は顧客獲得に最適な時期ということもありまして計画的に広告宣伝費、若干投下したこともございますが、しっかりとコストをコントロールできていると考えております。

前四半期比（3ヶ月） 収益増減分析

MONEX GROUP

クリプト：販売所売買代金が減少したため当四半期の収益は減少。2025年1月より開始しているステーキングサービスにかかる収益は「その他」に計上。



21

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

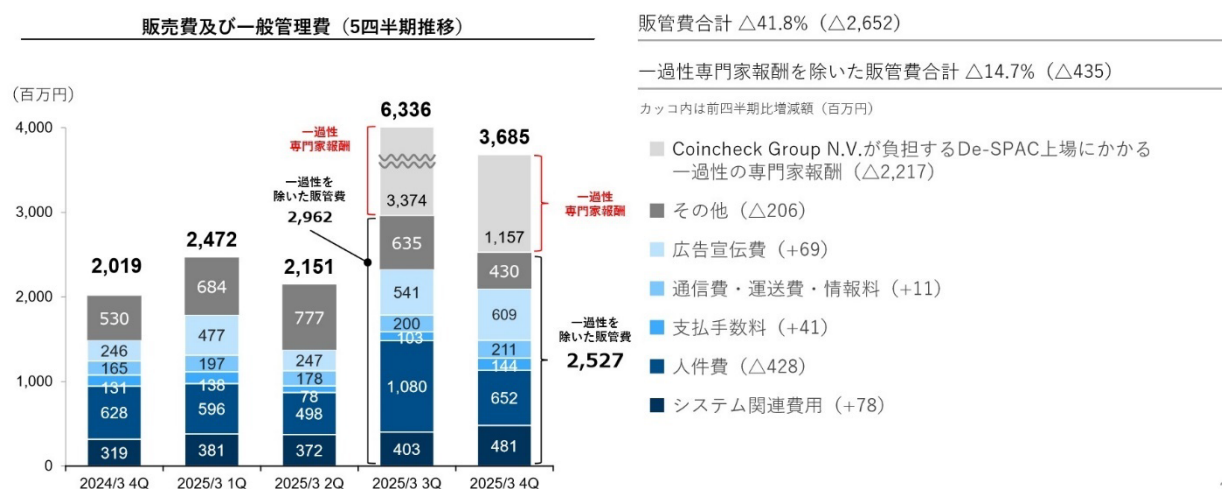


そしてコインチェック、クリプトセグメントでございます。こちら 3Q と 4Q の比較ですと、やはり取引ボリューム、マーケットが少し低調だったこともありまして販売所の売買代金も落ちておりますため、トレーディング損益が減少になっております。

前四半期比（3ヶ月）費用増減分析

MONEX GROUP

クリプト：De-SPAC上場にかかる一過性の専門家報酬を追加的に計上。一過性費用を除く販管費は適正水準でコントロール。



22

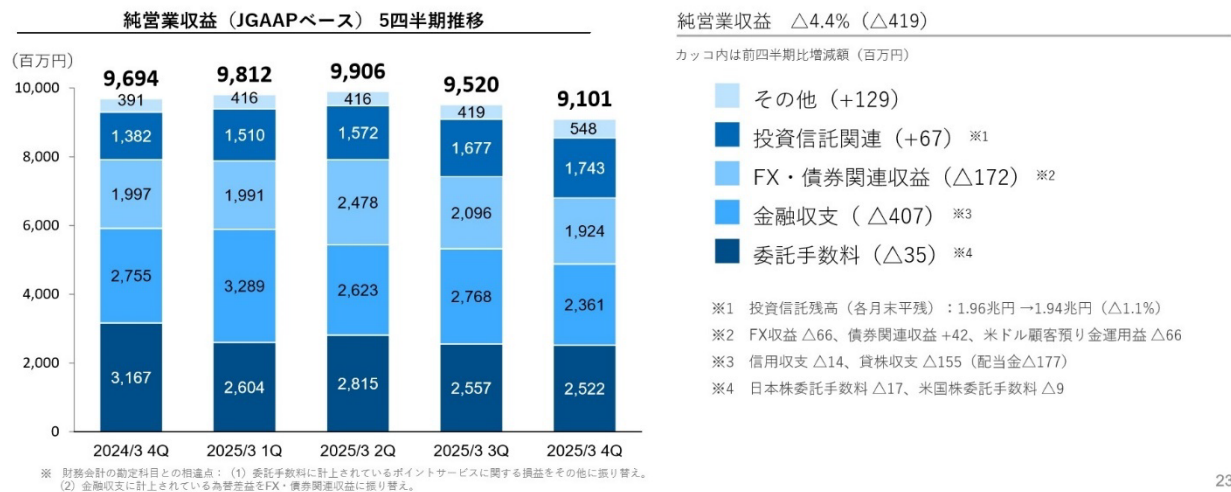
一方でコストは、一過性費用が入っておりますので少し分かりづらいのですが、一過性専門家報酬を除いた販管費についても記載させていただいております。私どもとしては、一過性専門家報酬を除いた販管費は、しっかりとコントロールできていると考えております。一番上のグレーが一過性の専門家報酬でございます、人件費が 3Q に増えたのは De-SPAC 上場がございましたので、その賞与が入っていると、そんなことがございますので増えておりますが、4Q もしっかりとコントロールできていると思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



マネックス証券：不安定なマーケットの中、顧客取引は減少するも、金利上昇に伴い投資信託関連収益が増加。



23

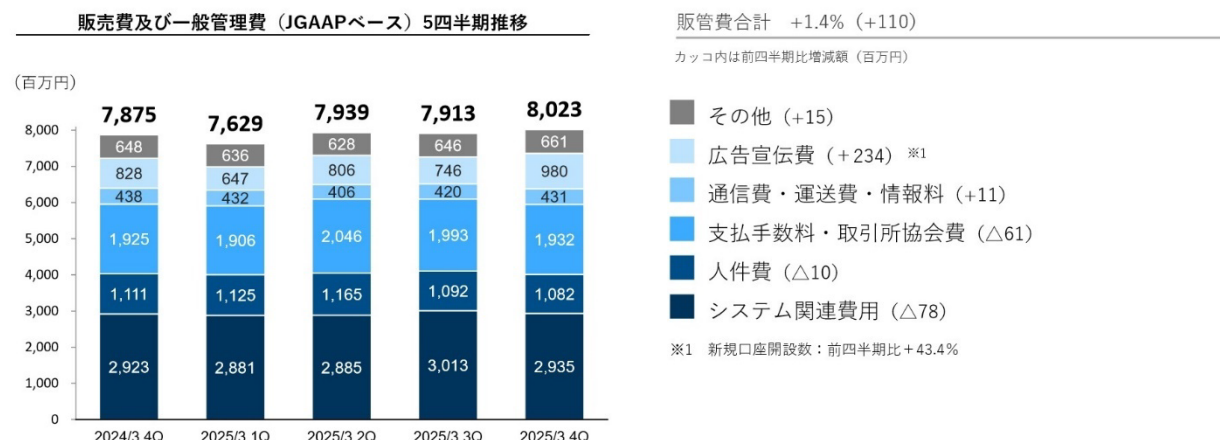
マネックス証券単体の JGAAP の 3 カ月比較でございます。この 1 月から 3 月の 4Q は、非常にマーケットが不安定だったので、お客様の取引は手控え状態ということでございました。信用取引につきましてもなかなか信用残高が戻り切っていないところの影響がございました。

一方で、日本も金利が出てきたこともありまして、私どもはお客様の預かり金、MRF 運用になっておりますが、そちらの収益と金利が上がった影響で、そういったことから投資信託関連収益が増えております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

マネックス証券：新規口座開設増で、成果型広告宣伝費が増加。



24

マネックス証券の費用、こちらは NTT ドコモさんとの提携で口座を取りにいておりますので広告宣伝費増えておりますが、それとともに、あわせて新規口座開設も前四半期比プラス 43.4%と、ドコモさんとの提携による口座開設の成果と考えております。

2025年3月期（12ヶ月）

MONEX GROUP

日米証券事業の安定推移に加え、コインチェックが大幅増収。一方でコインチェックグループのDe-SPAC上場に係る一過性費用を計上し、連結当期利益※は△51億円。一過性要因を除いた実力値税引前利益は136億円、実力値当期利益※は94億円。

日本

マネックス証券による利益が年間を通じて持分法投資利益に移行。国内運用事業の着実な成長に加え、3iQのグループ入りによる収益貢献の結果、当期利益※は△0億円。

米国

株式、オプション取引が増加しその他受入手数料が大きく増加。金融収支も大幅に増加したことにより、営業収益は過去最高を記録。当期利益※もグループ入り後最高となる71億円。

クリプトアセット

暗号資産市場の活況に加え、当期第1四半期でIEO実施に伴う収益を計上した結果、増収。また、当期はDe-SPAC上場に係る一過性費用を計上した結果、当期利益※は△123億円。一過性費用を除いた実力値税引前利益は47億円。

投資

複数の投資先で株式評価・売却損益を計上し、当期利益※は△6億円。

※ 当期利益＝親会社の所有者に帰属する当期利益 25

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

年間は、サマリーだけご説明申し上げますと、年間は連結当期利益マイナス 51 億円というのが財務会計上の数字でございますが、一過性の要因を除きますと税前利益で 136 億円。税後の当期利益は 94 億円です。

前年同期比（12ヶ月）実績（連結）

MONEX GROUP

(百万円)	2024年3月期 (2023年4月-2024年3月)		2025年3月期 (2024年4月-2025年3月)		増減額		増減率 (%)	
	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後	財務会計 (実績)	一過性要因 調整後
金融費用及び売上原価 控除後営業収益	79,756	79,756	67,584	67,584	△12,171	△12,171	△15%	△15%
販売費及び一般管理費	67,606	67,606	61,916	57,385 ^{※2}	△5,690	△10,222	△8%	△15%
営業利益相当額	12,149	12,149	5,668	10,199	△6,481	△1,950	△53%	△16%
その他収益費用（純額）	35,021	468 ^{※1}	△9,520	3,429 ^{※3}	△44,541	+2,961	-	+633%
持分法による投資損益	473	473	1,943	1,943	+1,470	+1,470	+311%	+311%
税引前利益	47,170	12,617	△3,852	13,628	△51,022	+1,011	-	+8%
親会社の所有者に帰属する 利益	31,293	9,584	△5,067	9,385	△36,360	△200	-	△2%

※1 ドコモマネックスホールディングスの株式売却益および公正価値評価益の計34,553百万円を調整

※2 コインチェックグループ単体が負担するDe-SPAC上場に係る一過性の専門家報酬4,531百万円を調整

※3 コインチェックグループのDe-SPAC上場に係る一過性の株式報酬費用13,714百万円、BOOM証券売却益765百万円を調整

26

年間 は 26 ページに実績と一過性要因を調整した実力値の PL も載せております。なお、この営業収益がマイナス 15%となっているのは、2024 年 3 月期は 9 カ月間、マネックス証券はフル連結でございましたので、収益や販管費に 9 カ月分のマネックス証券が乗っております。

一方で 2025 年 3 月期は、年間を通じて持分法適用会社になっており、マネックス証券の利益取り込み、この持分法投資損益は、下から 3 段目のラインにしか出てきておりません。この昨年度の 473 というのは、2025 年 1 月から 3 月のマネックス証券の持分法利益の取り込みです。それ以外の 9 カ月分は収益や販管費は、上段で全部フル連結されております。そういったことから収益は落ちているように見えますが、利益ベースで見ていただくと、後ほどご説明しますがマネックス証券、YoY でしっかりと利益伸ばしておりますので問題なかったと思っております。

販管費、一般管理費のところに※2 とありますが、De-SPAC 上場に係る専門家報酬 45 億円が入っていたり、それからその他の収益、費用のところで De-SPAC 上場に係る株式報酬 137 億円が入っておりますので、こういったものを一過性要因除きました。前期につきましては、NTT ドコモさんにマネックス証券の株式を売却したという関係で、一過性の利益が逆に 345 億円乗っております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



すので、それを除いたらその他の収益 4 億 6,800 万円で、両方の期の一過性要因を排除しております。

その結果、先ほど申し上げましたとおり、親会社の所有者に帰属する利益は終わった期、2025 年 3 月期は 93 億 8,500 万円、前の期 2024 年 3 月期は 95 億 8,400 万円だったので、ほぼ維持できている状況でございます。

前年同期比（12ヶ月）実績（セグメント別）

MONEX GROUP

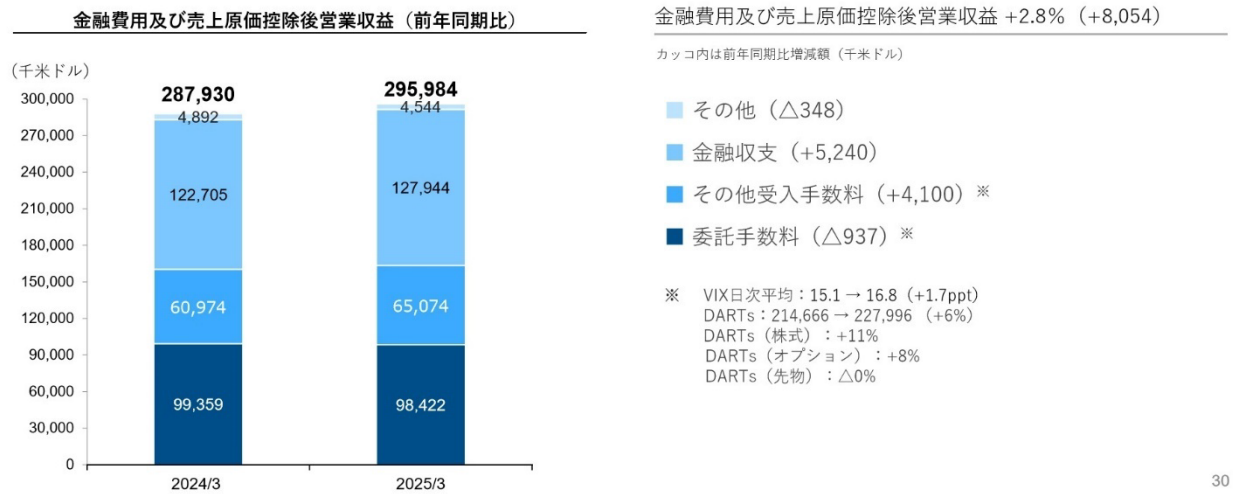
(百万円)	日本		米国		クリプトアセット 事業		アジア・ パシフィック※4		投資事業	
	2024/3	2025/3	2024/3	2025/3	2024/3	2025/3	2024/3	2025/3	2024/3	2025/3
金融費用及び売上原価 控除後営業収益	28,989	9,314	41,621	過去最高 45,116	9,231	13,448	939	620	104	△509
販売費及び一般管理費	25,461	10,457	35,352	36,501	6,758	14,645※2	1,057	598	108	128
営業利益相当額	3,529	△1,144	6,269	過去最高※1 8,615	2,473	△1,197	△118	22	△3	△637
その他収益費用（純額）	17,136	2,062	△595	85	365	△12,350※3	26	△13	17	△60
持分法による投資損益	505	2,003	-	-	-	-	△4	-	△28	△60
税引前利益	20,665	919	5,674	過去最高※1 8,700	2,838	△13,547	△91	9	13	△697
親会社の所有者に帰属する 利益	13,557	△3	4,478	7,051	1,748	△12,302	△84	49	△3	△626
備 考	金融費用及び売上原価控除後営業収益はP28、販管費はP29に増減分析を記載		金融費用及び売上原価控除後営業収益はP30、販管費はP31に増減分析を記載		金融費用及び売上原価控除後営業収益はP32、販管費はP33に増減分析を記載					

※1 当社グループ入り後
※2 コインチェックグループ単体が負担するDe-SPAC上場に係る一過性の専門家報酬4,531百万円を計上
※3 コインチェックグループのDe-SPAC上場に係る一過性の株式報酬費用13,714百万円を計上
※4 2024年10月にマネックスBoom証券等の売却が完了し、アジア・パシフィックセグメントは廃止済み

前年同期比（12ヶ月）収益増減分析（米ドル建て）

MONEX GROUP

米国：株式・オプションの取引が増加し、その他受入手数料は増加。
金融収支も引き続き堅調に推移し増収。年間で過去最高収益を記録。



サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

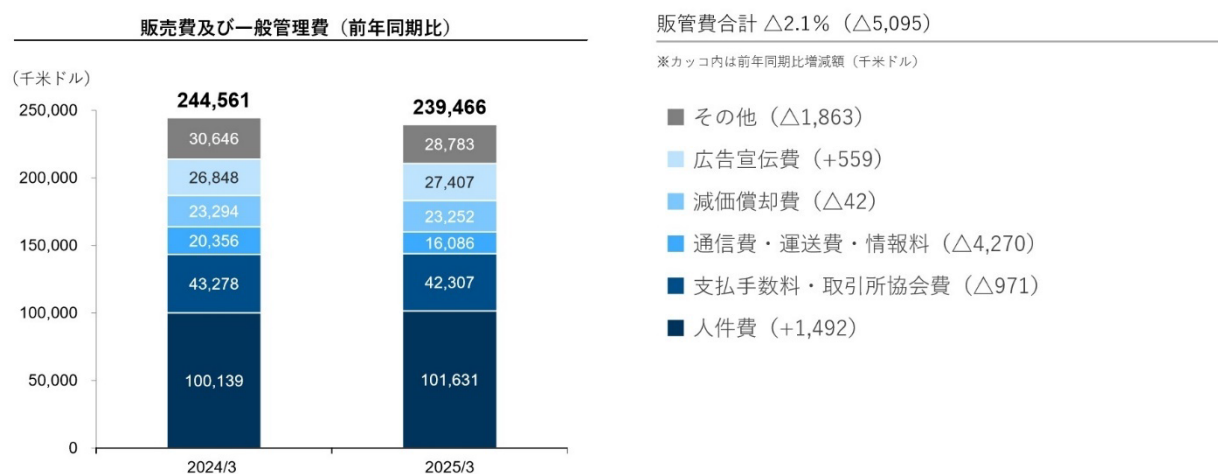


米国セグメントの過去最高の収益、利益につきましては、2011年にトレードステーションがマネックスグループにジョインした以降、過去最高の利益でございます。このあたりはちょっと見ていただきまして、トレードステーションは過去最高収益でした。やはり金融収支も伸びていますし、それから株式オプションのトレードボリュームが多かったので、ペイメント・フォー・オーダーフロー、その他の受け入れ手数料が多かったので過去最高となりました。

前年同期比（12ヶ月） 費用増減分析（米ドル建て）

MONEX GROUP

米国：先物市場データ費用の顧客への請求開始により情報料が減少。
費用全体は適正な水準を維持。



31

一方で、費用はしっかりと抑えられています。とりわけ先物市場データの費用のお客様への請求開始によりまして、情報料が減っているのが大きいと思います。

サポート

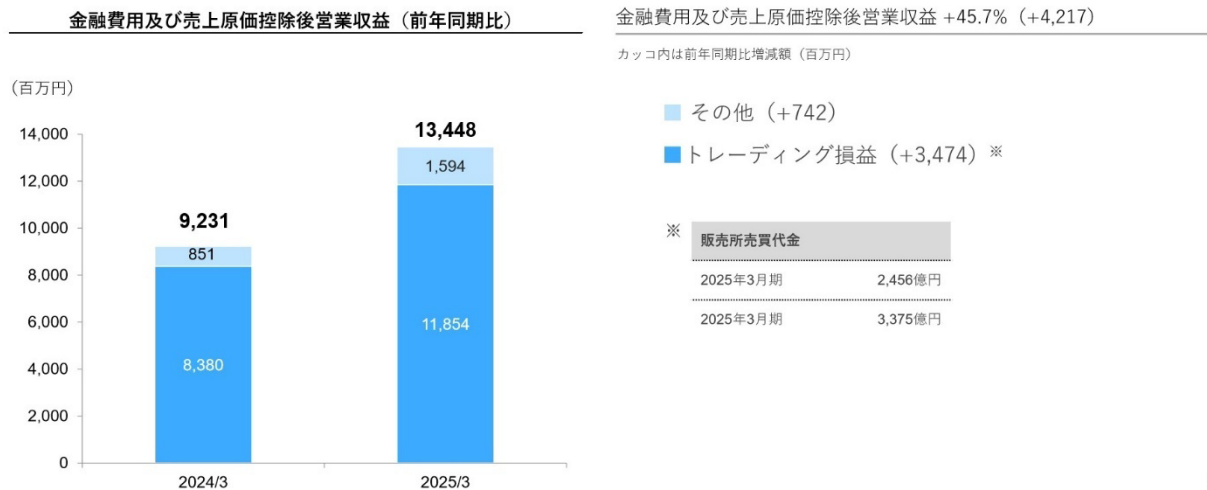
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



前年同期比（12ヶ月） 収益増減分析

MONEX GROUP

クリプト：暗号資産市場の活況に加え、当期第1四半期にIEO（Initial Exchange Offering）実施に伴う収益も計上した結果、増収。



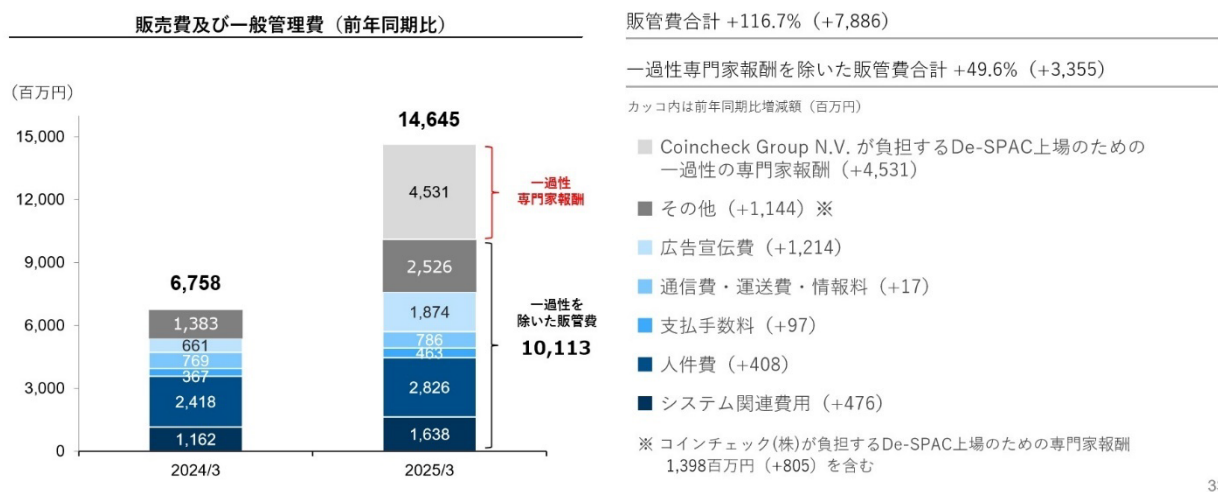
32

クリプトセグメントにつきましても、年間で見ますと10月から12月のマーケットが活況だった影響もございますので、トレーディング損益、大きく増収しました。それから、その他のところにはIEO収益を計上しておりますので、年間では大きくプラスです。

前年同期比（12ヶ月） 費用増減分析

MONEX GROUP

クリプト：De-SPAC上場のための一過性の専門家報酬を計上。当期上半期にTVCMを実施したため広告宣伝費は増加したが、他費用は適正にコントロール。



33

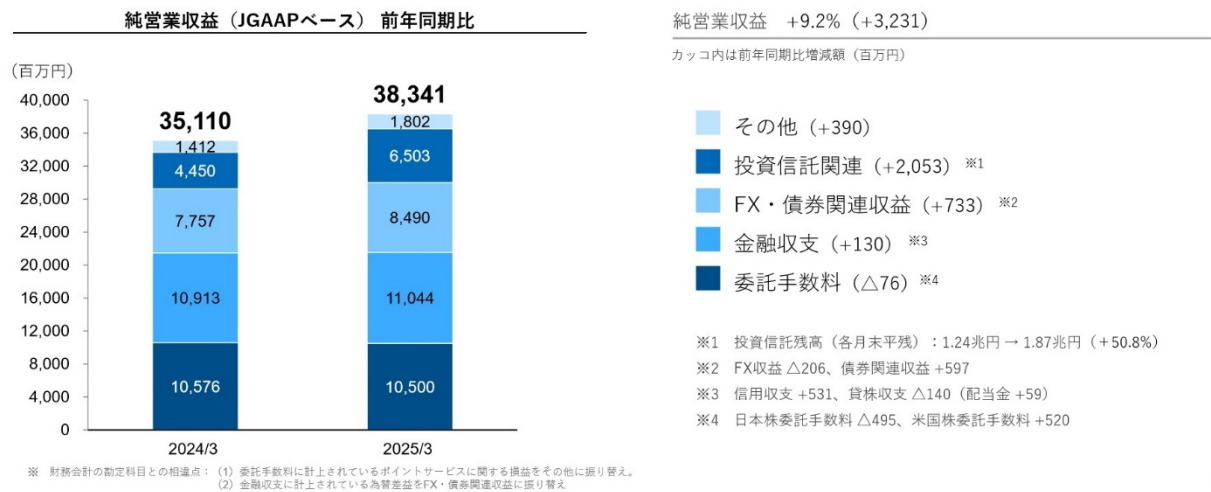
費用は、表面上大きくプラスになっておりますが、一過性費用を除きますと49.6%の増加で、ある程度抑えられていると思っております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



マネックス証券：イオン銀行からの口座移管及びNTTドコモとの資本業務提携等で投信関連収益が大幅増。ウェルスマネジメント事業の伸長で債券関連収益も増加。



34

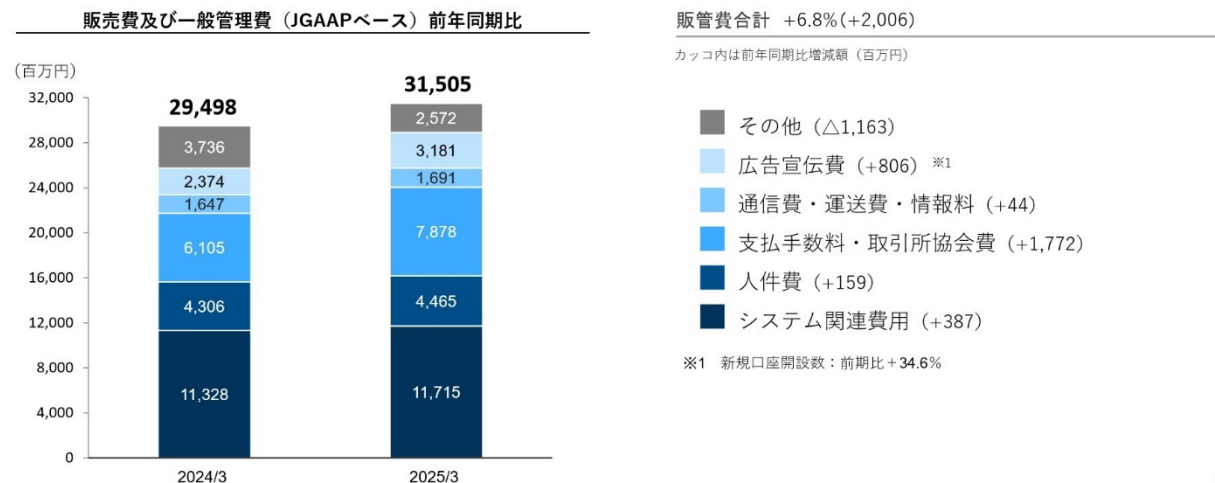
マネックス証券の年間ですが、先ほども少しご説明しましたとおり、しっかりと増収着地となっております。これはイオン銀行との業務提携で、イオン銀行から口座移管が2024年1月にございました。投資信託の移管もございましたので、そういった形で投資信託の残高が伸び、それに加えてNTTドコモとの資本業務提携でdカード積立や、そういったドコモさんからのお客様の取引も増えて投信関連収益が大きく増収しました。

そして、ウェルスマネジメント事業も成長しておりますので、債券関連収益も伸びたということで増収という形になります。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

マネックス証券：NTTドコモとの協働プロモーションにより広告宣伝費が増加。
仲介事業の拡大に伴って投信および債券関連の支払手数料が増加。



35

9.2%増収した一方、販管費の増加は6.8%に抑えられておりますので、マネックス証券単体の100%で見たときの実績といたしましては、増収増益の着地です。

販管費、一部広告宣伝費増えておりますけれども、先ほど来から申し上げておりドコモとの連携がある程度うまくいっており、口座が増えているという形でございます。

株主還元

MONEX GROUP

2024年1月4日効力発生の株主還元方針に即し、自己株式取得を実施中。

資本政策

当社は、成長領域への投資や事業基盤の強化を適正かつ積極的に推進しつつ、ROE15%を目指します。加えて、株主の皆様への利益還元をバランスよく実施することで、企業価値の持続的拡大とTSR（※）の向上を目指していきます。

※ $TSR \text{ (Total Shareholder Return (株主総利回り))} = (\text{キャピタルゲイン (株価) + 配当}) \div \text{投資額}$

株主還元に関する基本方針

1. 配当は、1株当たり配当金の下限を年30円とします。
2. 加えて、1株当たり親会社の所有者に帰属する当期利益の50%が上記1.を超えた場合には、1株当たり親会社の所有者に帰属する当期利益×50%を下限とした配当を行います。
3. また、環境を見て、機動的に自己株式取得を行います。

※ 2023年10月4日付のプレスリリース
「株主還元に関する基本方針の変更についてのお知らせ」
https://www.monexgroup.jp/jp/news_release/irnews/auto_20231004562795/pdfFile.pdf

自己株式取得の概要

2024年7月26日に下記自己株取得の決定を発表。

- ・株式取得価額：50億円（上限）
- ・取得期間：2024年7月29日～2025年6月30日
- ・実績：累計 約49.5億円（2025年4月30日時点）

※2024年7月26日付のプレスリリース
「自己株式の取得に係る事項の決定に関するお知らせ」

配当の概要

	1株あたり配当金		
	中間期	期末	年間
		25.20円	40.30円
2025年3月期	15.10円	(普通配当 15.20円) (特別配当 10.00円)	(普通配当 30.30円) (特別配当 10.00円)
2026年3月期 配当予想	15.20円	15.20円	30.40円

36

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

配当につきましては、申し上げましたとおり 25.2 円です。引き続き 6 月末まで自社株買い、実施しておりまして、3 月までで約 40 億円買ったという形です。

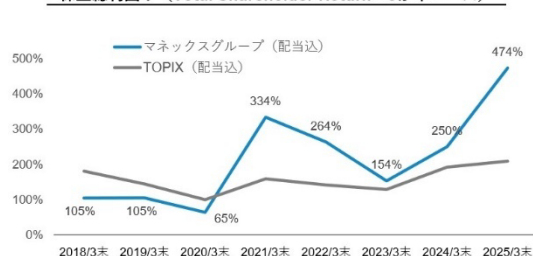
株主還元実績および予想

MONEX GROUP

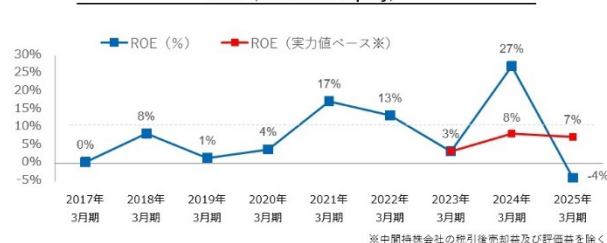
2025年3月期は自己株式の取得も進める中、期末の特別配当も発表。



株主総利回り (Total Shareholder Return : 5年ベース)



ROE (Return on Equity)



そして ROE と、それから配当とか株主還元の推移でございますが、まず ROE について一過性の利益が 2024 年 3 月期あり、2025 年 3 月が一過性の費用があったので少し分かりづらいので、これらを除く実力値ベースを出しております。

足元 ROE7.3%が終わった期になりますが、これを上げていこうと成長投資、Westfield 社、4 月になりましたけれども投資をしております。

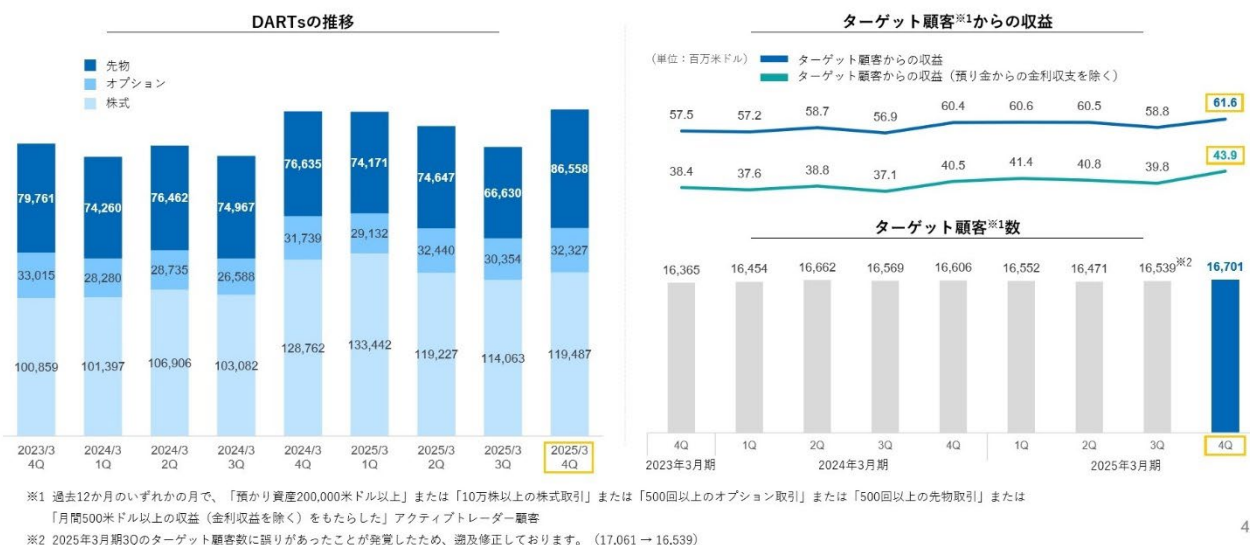
左側の株主還元の推移のところで、ここ 10 億円と自社株買いについて書いてあるのは、今 50 億円の自社株買い実施しておりまして、3 月まで 40 億円やっておりますので 10 億円、2026 年 3 月期に乗せています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



当四半期では顧客の先物取引の増加が収益を牽引。今後もアウトバウンドセールスやサードパーティーとのAPI連携によりターゲット顧客※1を増やし、収益を拡大していく。



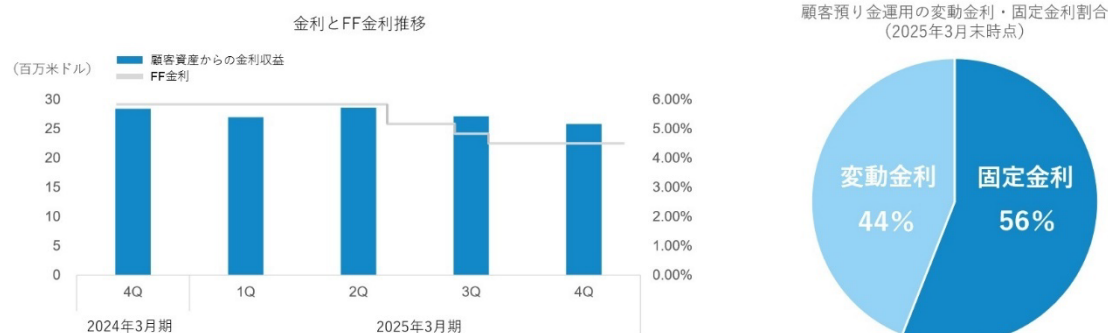
42

ビジネスアップデートを簡単に付言させていただきます。トレードステーションは、42 ページ左側に、DARTs の推移、載せております。先ほど申し上げましたが不安定なマーケットにおきましてもお客様の取引ボリューム、安定的に推移しているというか、4Q はボラティリティ高かったので、先物が特に伸びました。そのようなこともありまして、ターゲットのお客様からの収益も、少しですけれども伸びた形になっております。

顧客預り金からの金利収支は安定的に推移。今後も金利低下局面に備えた運用を行っていく。

顧客預り金からの金利収支の推移

- ・顧客の米ドル預り金（4Qの各月末平均で約25億米ドル）を運用した金利収益は自社に帰属し、金融収益として計上。
- ・今後の金利低下局面に備えて約56%を固定金利で運用しており、安定的に収益を獲得する。
- ・FF金利0.25%の変動は、年間で約2.6百万米ドルの金利収支の増減要因になる。



43

サポート

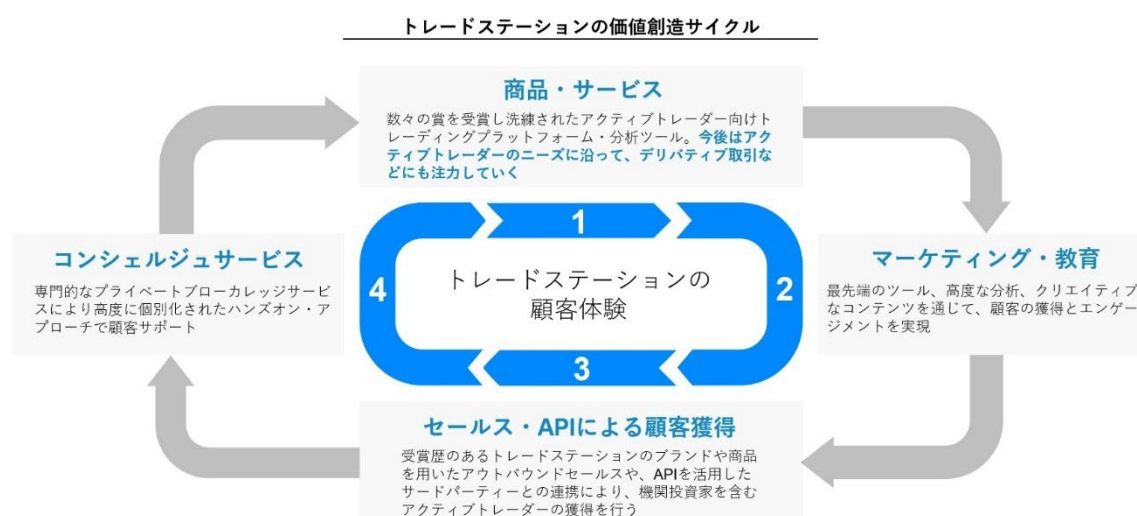
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

引き続きお客様の預かり金の運用をしております、その預かり金の残高は25億ドルでずっと推移しております。特に減っておりません。しかしながら、金利が若干下がっている、この運用益につきましても若干減っております。見ていただきますと分かる通り固定金利の運用56%を実施しておりますので、今後、金利低下局面が来た場合においてもある程度は、ちゃんと収益ピクできるところでございます。

トレードステーション 3/4

MONEX GROUP

アクティブトレーダー向けの洗練されたツール、コンシェルジュサービス、顧客の取引体験を向上させることで、収益の拡大を目指す。



44

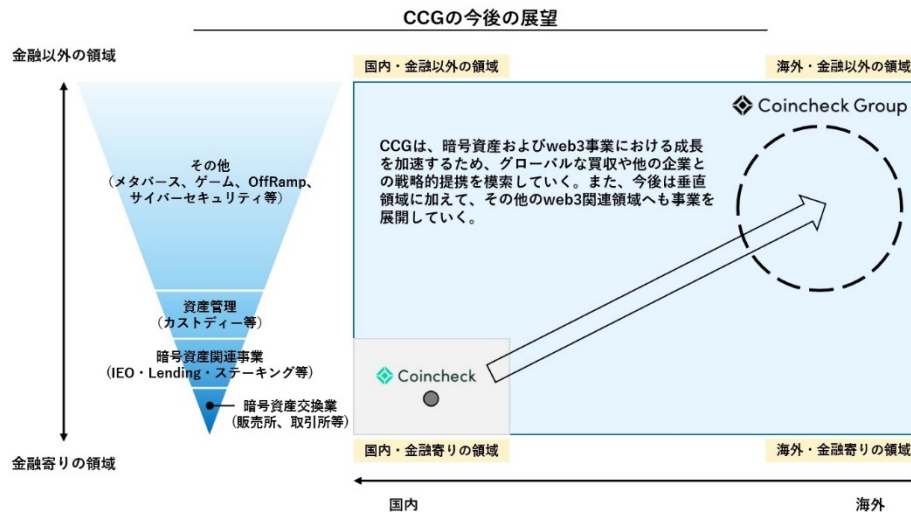
トレードステーションのセールスチーム、コンシェルジュがうまくいっております、しっかりとハイバリューカスタマーを取っておりますし、時間外取引からの収入も収益貢献もしっかり見ております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



Nasdaq上場企業としての知名度や信頼性を背景に、M&Aやテクノロジー人材の採用により事業を拡大していく。



46

コインチェックグループの戦略、変わらず M&A を国内外でバーティカルにもホリゾンタルにもやっていきたいと思っております。

株式会社Next Finance Tech (NFT) のCCG参画

日本を本拠としてステーキングサービスを提供する唯一の事業者がCCGに参画。今後は、コインチェックのステーキングサービスを強化するとともに、グローバルでのサービス展開も視野に入れる。

NFTのサービス	サービスの提供先	
	これまで	これから
1. ステーキング・インフラの開発 (国内暗号資産交換所、グローバルのweb3プロジェクトに対して、ステーキング・インフラを提供)	国内外の法人	CCG参画により、よりグローバルなレベルで個人及び法人へのサービス提供が可能に。
2. ブロックチェーン・リサーチハウス (ブロックチェーン、分散型金融に関する定量的・定性的なリサーチを実施、分析レポート等を発行。)	主に国内法人	今後もコインチェックやCCGに限らず、国内外の事業会社、機関投資家に広くサービスを提供していく。

47

コインチェックグループが買収しました Next Finance Tech は、日本拠点のステーキングサービスを提供する事業者でございますけれども、コインチェックはすでにステーキング始めております。コインチェックのステーキングでの連携も期待できますし、さらにはグローバルに金融ビジネス

サポート

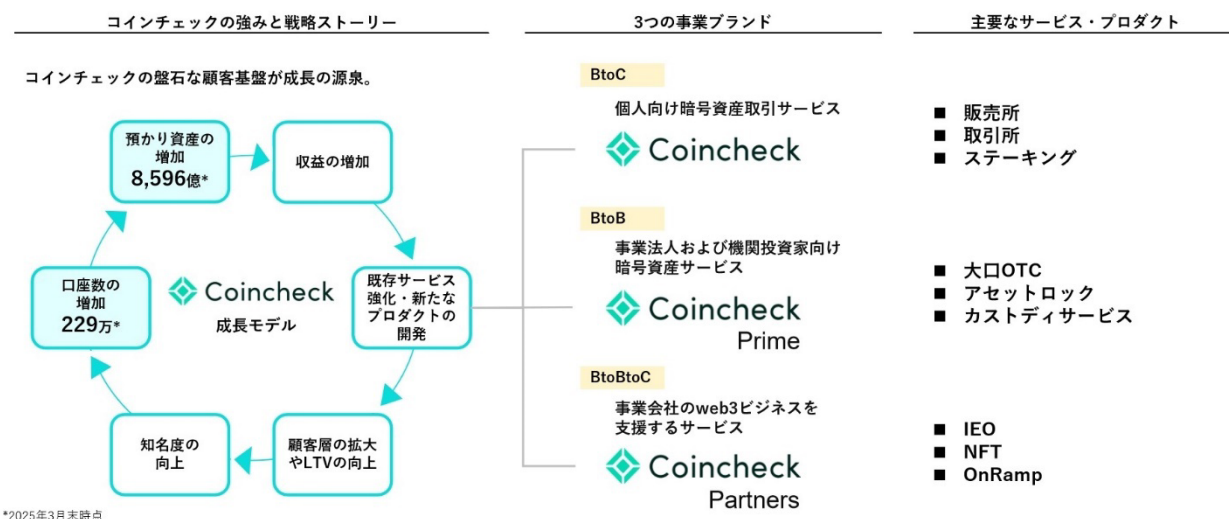
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

スを発展させていこうというところで、この Next Finance Tech、貢献してくれると思っております。

コインチェック 1/3

MONEX GROUP

国内市場における圧倒的な顧客基盤を軸に、今後は事業法人および機関投資家向けサービスや事業会社のweb3ビジネスを支援するサービスにも注力していく。



48

コインチェック、元々リテールの顧客基盤、非常に強固でございますが、その上に BtoB ビジネスとして先日、Coincheck Prime というものを発表しております。昨今、事業法人様、あるいは機関投資家様の暗号資産運用ニーズがございますので、運用だけではなく、そういったものも含めて、コインチェックでサポートさせていただいております。

サポート

日本

050-5212-7790

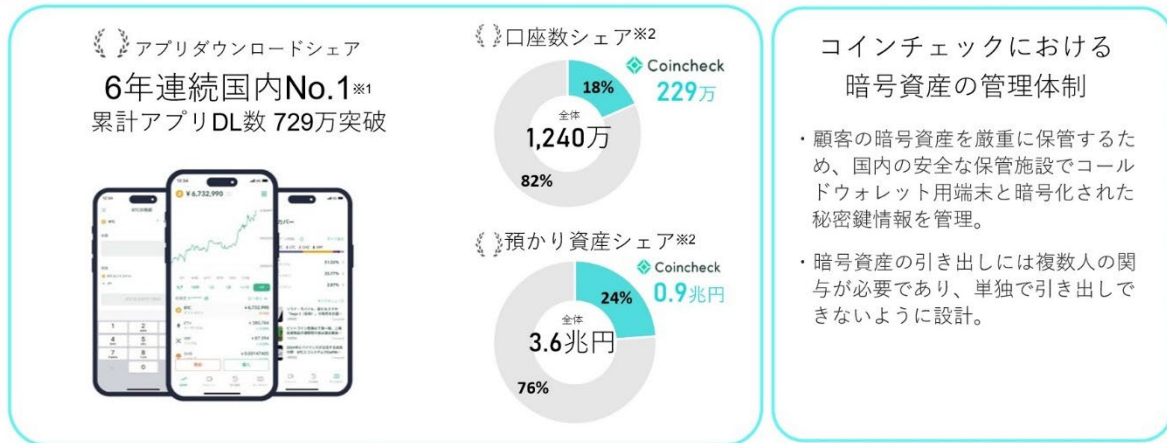
フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

国内暗号資産交換業者のリーディングカンパニーとして顧客基盤の拡大を進める。

販売所/取引所事業



※1 国内の暗号資産交換業者 期間：2019年～2024年 データ協力：AppTweak
※2 2025年3月末時点。JVCEA1種会員31社中。JVCEA: <https://jvcea.or.jp/about/statistics/>

49

コインチェックは、国内最多のIEO実施実績があり、現在は4号案件となるFanpla社のIEO実施に向けて準備中。

コインチェックのIEO実施実績



50

IEO も同じです。こちらのとおり 6 年連続、コインチェックのアプリダウンロードシェアナンバーワンです。IEO は今、4 号案件、予定しております。

サポート

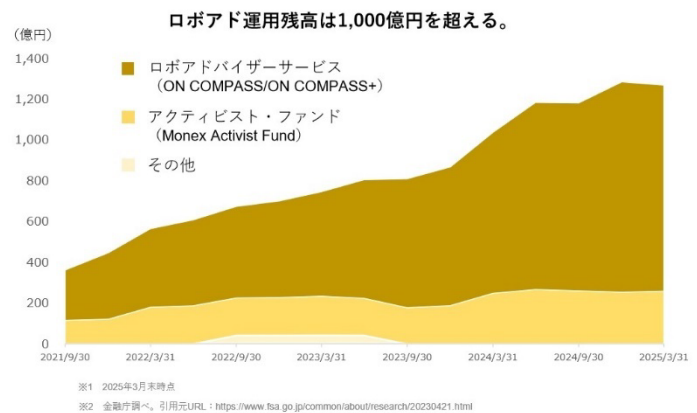
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

マネックス・アセットマネジメントの運用規模は約7,000億円に到達し、今後もアセットマネジメント事業に注力し拡大を目指す。

マネックス・アセットマネジメントの運用商品及び運用残高

- ロボアドバイザーサービス
『ON COMPASSシリーズ』
「2022年ファンドラップ 費用控除後運用パフォーマンス」※2
における過去3、5年のシャープレシオ及びリターンで第1位。
運用残高 約1,000億円
- マネックス・アクティビスト・ファンド
個人投資家を巻き込んだオープンかつ包括的なエンゲージメントを通じて、変革期を迎える日本企業を中心に投資する
個人投資家向けアクティビストファンド。
運用残高 約260億円
- 機関投資家／事業法人向け運用
地方銀行などの金融機関を含む機関投資家から資金を預り、
マネックス・アセットマネジメントが運用。
私募投信の運用残高が好調に推移。
運用残高 約5,650億円

ロボアドバイザーサービス及びアクティビストファンド運用総額※1



51

アセットマネジメント、マネックス・アセットマネジメントの運用残高も堅調に推移しておりまして、全体で7,000億円、ロボアドのみで1,000億円です。

マネックス・アクティビスト・ファンド（MAF）

MONEX GROUP

上場企業の資本効率の改善と資本市場の活性化を追究。

運用パフォーマンスは、投資先企業へのエンゲージメント効果もあり好調。

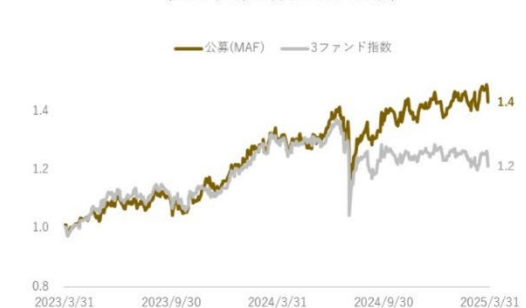
マザーファンド（MAMF）とTOPIXとのパフォーマンス比較、
及び純資産総額推移
（2020年4月9日～2025年3月31日）

マザーファンド(MAMF)は5年で2.6倍(TOPIX2.1倍)、純資産総額260億円に
（2020年4月9日を1として比較）



公募（MAF）と国内アクティブファンド※との
パフォーマンス比較
（2023年3月31日～2025年3月31日）

公募（MAF）のパフォーマンスは2年で1.4倍まで上昇
（2023年3月31日を1として比較）



※日本株アクティブファンドの純資産総額上位3ファンドの基準価額を元に当社が加重平均で算出した指数

52

そしてマネックス・アクティビスト・ファンド、非常に運用成績が良く、左側にあるところを1として運用成績、見ております。こちら、左側、2020年3月期、3月31日を1とした場合に足元

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2.6 倍で、非常にトピックスや、あるいは右側は国内のアクティブファンドとの比較をしておりますが、非常に運用成績が良いです。

3iQ Digital Holdings Inc.

MONEX GROUP

カナダの暗号資産運用会社3iQ Digital Holdings Inc. は、今後増大が予想される世界の機関投資家や取引所における暗号資産運用ニーズの取り込みを目指す。

3iQ Digital Holdings Inc.

■ 事業概要 

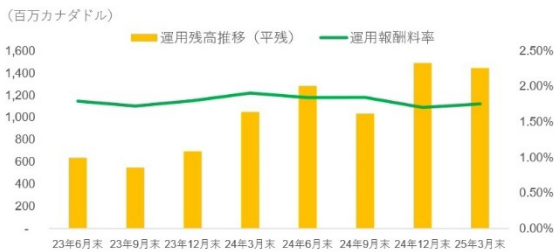
- ・BTC※1とETH※1のETFをトロント証券取引所に上場。世界で初めてETHのETFにステーキング機能を実装。
- ・投資家自身が暗号資産ポートフォリオをカスタマイズできる運用商品QMAPを提供。

■ トピック

- ・2024年4月にはステーキング機能を実装したSOL※1のETFをトロント証券取引所に上場。上場して2日間でAUMが90百万カナダドル（約94億円）※2と、AUMがカナダで最大のSOL ETFとなる。

※1 BTC=ビットコイン、ETH=イーサリアム、SOL=ソラナ
※2 カナダドル/日本円レートして104.24を利用

■ 運用残高



3iQ、こちらも堅調にビジネスやっておりますが、4月にステーキング機能を実装したソラナのETFをトロントに上場させました。こちら、大変AUMが順調に伸びております。

その他 1/2 (株式会社ヴィリング)

MONEX GROUP

ヴィリングでは、STEAM※教育・バイリンガル教育・発達支援事業を展開。

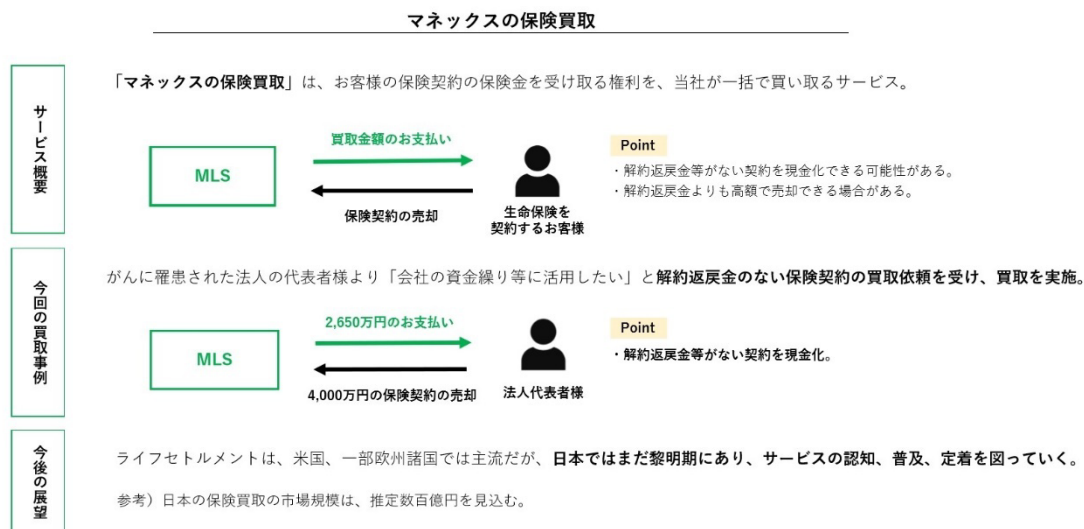
事業領域	サービス名	事業内容	KPI(2026年3月期)
STEAM教育関連 ※Science, Technology, Engineering, Art and Mathematics	「ステモン」 	理数ITを活用した日本初のSTEAM教育スクール。 コンストラクショニズム学習をベースにした たつくることで学ぶSTEAM教育スクール。	今期FC展開において+8%の利益成長を目指す。
バイリンガル教育	「お迎えシスター」 	バイリンガルの講師がご自宅で児童の性格・個性・レベルに合わせた学びのある英語レッスンを提供。	リブランディングやお迎えサービス強化等により来期末までに生徒数を+24%目指す。
教育システム	「AIセラピスト co-mi」 	放課後等デイサービス・児童発達支援での「発達特性診断」「個別支援計画書の自動発行」「支援メニュー提示」まで行う『AIセラピスト co-mii』。	2025年3月末時点で導入施設数が目標比230%となる554件と順調に推移。 1,000件超を目指す。
発達支援	「いちきゅうリワーク」 	自立訓練事業所「いちきゅうリワーク」では、専門スタッフが利用者の個別支援計画に沿った多彩なプログラムを提供。	事業単体での黒字化を目指す。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



マネックスライフセトルメントでは、「マネックスの保険買取」サービスの提供を展開。



55

STEAM 教育もやっておりますけれども、一つこちらでご案内させていただきたいのが、マネックスライフセトルメントというマネックスの生保買取ビジネスについてです。こちら先日、1 件目の買い取りを実施いたしました。ライフセトルメントは米国や一部の欧州の国では主流ですが、日本はまだ、ほぼ例を見ないと思っております。こちらをしっかりとサービスの認知、普及、定着を図っていきたいと思っております。この保険買取、手法はここに書いてございますが、市場規模は推定で数百億を見込んでおりますので、しっかりとサービスを育ててまいりたいと思います。

少し長くなりましたが、以上が私からの説明でした。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

清明 [M]：ここからご質問をお受けしたいと思います。SMBC 日興の原さんからいただいているご質問からお答えしていきます。

原 [Q]：一つ目、証券の不正取引で補償するとの申し合わせが行われましたが、今後生じうる業績への影響はどの程度あるのでしょうか。

清明 [A]：申し訳ございません。こちらにつきましては、今、お答えできるものがなくて、現状、見積もりができない状況でございます。被害に遭われている方、それぞれ一人一人への個別にしっかりと状況を把握しているとともに、そもそも補償の在り方も含めていろいろと検討をしている状況でございますので、現状申し上げられることはできないのですが、業績への影響の確定が分かり次第、しっかりと必要に応じて開示すべきであれば開示していくことをやってまいります。申し訳ありません。現在の段階では申し上げられることがございません。

原 [Q]：二つ目、4Q にクリプトの専門家報酬が発生した理由を具体的に教えてください。今後も発生するものなのでしょうか。

清明 [A]：まず初めに今後、この関係の費用は発生いたしません。追加の一過性専門家報酬 11 億 5,700 万円がございました。こちらは、専門家に対していわゆる後払いになっていたものが一部ありました。それと、上場が 2024 年 12 月で、費用の精算をしているときに、請求が決算を締めるまでに間に合わなかったものがあり、それが後から来たものです。それと、私どもが直接活用した専門家というよりは、そのディールの中で FA さんとかも含めて、いろいろストラクチャーを検討する際に専門家を活用したものが 3Q で計上できずに、4Q になってしまったというものの、その三つでございます。これにつきましては、本当に De-SPAC 上場するため、プロセスのための費用でございますので、こちらは発生しません。

しかし、例えば弁護士費用や会計士の費用は、上場を維持するための費用です。あるいは何かファイリングをするときに専門家の先生にサポートしてもらうもの、こういった上場している中で発生する費用は専門家報酬で、これまでもありますし、これからも発生するとは思いますが、この De-SPAC 上場のプロジェクトに関する費用はここから先、発生するものではございません。

一部、12 月ということもありまして期ずれというか、4Q にずれてしまったものもございましてこのような形になっております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

原 [Q]： Westfield Capital の持分法適用化に伴う業績影響について教えてください。これが ROE 向上に資するのでしょうか。

清明 [A]： 20%投資しましたので今後、Westfield Capital の業績につきましては持分法取り込みということで私どもの最終税後利益、持分法利益に反映してきます。この Westfield Capital は、先ほどもありましたが AUM しっかりと着実に増えているので、すなわち業績も安定しており、キャッシュフローをちゃんと出ている会社でございます。

今回、20%を取得するに当たりまして、一部銀行 Debt を引っ張っております。コーポレート Debt を引っ張っておりますので、そういった意味でもフルエクイティでいくのではなく、資本効率を考えてそのような形でしております。まず 20%を取得したことで、しっかりと利益を取り込んでいく。ただ単に Westfield 社の、20%分のこれまでの利益を維持するのではなくて、シナジーです。日本での販売を手伝うとか、そうやって私達と組むことで AUM をさらに広げていくことで、この利益の部分を大きくしていきたいと思っております。

そういった意味で、ROE の向上のための分子を増やしていく、貢献してくれると思っております。

他に質問ございますでしょうか。

質問者 [Q]： Westfield Capital の実績財務情報がないのですが、なぜでしょうか。

清明 [A]： まず、4 月に投資していることと、こちらは開示基準に照らしまして、それを全て開示するものでもないと思っておりますが、7 ページの一部この 240 億ドルが AUM のオーソドックスな運用会社でございますので、AUM があって運用報酬があるという会社でございます。

年間の営業収益は 2024 年で 1 億ドル超と記載しておりまして、ここから推測いただければと思います。まず、3 月までには何も入っていないということと、4 月以降につきましては持分法利益の中でアセマネセグメントの中で、持分法利益のところに入ってくるという形でございます。そちらでご確認いただければと思います。

質問者 [Q]： 少持分法なので、利益の情報がないのでしょうか。

清明 [A]： こちらにつきましては開示のルールにのっとって開示していないということでございます。ここはご容赦いただければと思います。今後は先ほどの繰り返しで大変恐縮ですが、アセマネ、ウェルス事業セグメントの中の持分法利益で開示します。それが全てではないかもしれませんが、予測できるというところでございます。こちらは先方とのもちろん守秘義務契約とかもございますし、それから何よりも開示のルールにのっとってやっているものでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

清明 [M]：次に、モルガン・スタンレーMUFG の長坂様からのご質問を頂いております。

長坂 [Q]：コインチェックについて、成長戦略についてあらためて考え方を教えてください。投資戦略、人材戦略、マーケティング戦略など。また、日本における機関投資家ビジネス拡大余地などもあわせてお願いします。

清明 [A]：まず、コインチェックにつきまして、コインチェック単体でしょうか。コインチェックグループもでしょうか。どちらもだとしますと、コインチェック単体につきましては今、このとおりです。コインチェックが何か、人材は必要だとは思いますが、それからコインチェックにつきましては今、金商法にこの暗号資産取引が入るのかどうか。そういったことが議論されています。

それにあわせて、もちろんコインチェックは資金決済法のライセンスを持っている会社でございまして、金商法になっていきます。当然ながら一種ライセンスが必要になってきますし、それから例えばデリバティブ取引もやっていくのか。そういった商品の拡充、これは toC のビジネスですが、toC ビジネスを拡充する中で必要なエンジニアやコーポレート部門の者、それからコンプライアンスの担当やそういった人たちは、この事業をやっていく上で、この今のレギュレーションの方向性に関しまして、toC ビジネスは必要に応じて強化していかなくてはいけないと思っております。

機関投資家ビジネス、私どもとしては拡大余地があると思っております。この Coincheck Prime を出したところ、やはり問い合わせを結構受けております。事業法人様、機関投資家様、運用資産の一部として暗号資産をというようなお声もありますので、このあたり、しっかりとコインチェックでサポートしていきたいと思っております。

その中でカスタディサービスもあるかもしれないと思っておりますので、このあたりは会社への投資というよりかは、事業を推進するに当たってサービスを強化するとか、人材を強化するみたいなことはやっていきたいと思っております。

マーケティングにつきましては、コインチェック、これまで同様に、今は少しマーケットがあんまり良くないときはしっかりと広告宣伝費を抑えて、マーケットが良くなってきたときにしっかり刈り取るべく広告宣伝費を踏むということをやっておりますが、これからも変わらないと考えております。

コインチェックグループは、M&A もそうですし、このナスダック上場株を活用しまして優秀な方々にチームにジョインしてもらおうとかそういったことを考えております。お答えになっておりますでしょうか。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

他にございますでしょうか。またご質問などありましたら、IR のほうにご連絡いただければと思います。

1 点、これ、もしかすると原さんから別途いただくかもしれないのですが、Westfield 社につきましては、収益のところは 1 億ドル超と開示しておりますけれども、利益率です。アセマネ会社でございますので人が命の会社でございます、非常に利益率は高い会社だと思っていただいて結構かと思えます。

その 20%を取り込んでいくということでございますので、とにかく AUM を伸ばして、今の利益率を維持して、その 20%を取り込んでいく。その際に、投資としては資本効率を考えまして一部コーポレート Debt を引っ張ったということで、レバレッジかけているということでございます。

こんな回答で申し訳ないのですが、ご理解いただければと思います。

そうしましたら質問も今のところないようでございますので、私からのご説明を終了とさせていただきます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com